

7) 塩谷町のキクに発生した高度抵抗性ミカンキイロアザミウマに対する主要薬剤の殺虫効果

(1) 目的

塩谷町において、キクのミカンキイロアザミウマで新規薬剤を含む数種薬剤の感受性低下が疑われる事例が発生したため、主要な薬剤の殺虫効果を確認した。

(2) 材料および方法

① 供試虫

2013年6月に塩谷町のキクほ場から採集したミカンキイロアザミウマの雌成虫を使用した。

② 供試薬剤

薬剤は新規登録薬剤および近年まで殺虫効果が確認されている5薬剤を選択した。供試薬剤は表1の濃度に希釈し、展着剤としてマイリノーを最終濃度20,000倍となるように加えた。対照区は展着剤のみを加えた水道水を用いた。

③ 検定方法

検定法は柴尾(2013)のソラマメ葉片浸漬法に基づいた。約1.2cm×1.2cmのソラマメ葉切片を作成し、薬液に浸漬・風乾後、ろ紙片、供試虫(10頭程度)と一緒にスチロール容器に入れ、上部をパラフィルムで封じて25℃条件下に置いた。48時間後に生死を判定し、Abbottの補正式を用いて補正死虫率を算出した。

$$(\text{補正死虫率}(\%)) = \{ (\text{対照生存虫率} - \text{処理生存虫率}) / \text{対照生存虫率} \} \times 100$$

また、葉表面の食害面積を記録し、対照区を100とした場合の換算値を食害面積率として示した。

$$(\text{食害面積率}(\%)) = \{ (\text{対照食害面積率} - \text{処理食害面積率}) / \text{対照健全面積率} \} \times 100$$

(3) 結果

①殺虫効果の高い薬剤は認められなかった。

②アバメクチン、ピリダリルには食害抑制効果が認められた。

表1 キクのミカンキイロアザミウマ(塩谷系統)に対する主要薬剤の殺虫効果

薬剤名	商品名	薬剤系統名	使用濃度	補正死虫率 (%)	食害面積率 (%)
スピネトラム水和剤	ディアナSC	スピノシン	5000	6	73
アバメクチン乳剤	アグリメック乳剤	マクロライド	500	3	0
エマメクチン安息香酸塩乳剤	アフーム乳剤	マクロライド	2000	6	70
プロチオホス乳剤	トクチオン乳剤	有機リン	1000	62	73
ピリダリル水和剤 ¹⁾	プレオフロアブル	その他	2000	60	0

1)登録対象害虫はオオタバコガである。